



ビオトープで生き物を観察

エコパーク推進室は5月8日、綾町役場北側のビオトープ「綾トープはっけんじま」で、綾小学校4年生とともに水辺の生き物の観察を行いました。児童たちは植物、昆虫、アカハライモリなどを観察する班に分かれ、水辺の生き物たちと触れ合いました。



エコパーク推進室は5月8日、綾町役場北側のビオトープ「綾トープはっけんじま」で、綾小学校4年生とともに水辺の生き物の観察を行いました。児童たちは植物、昆虫、アカハライモリなどを観察する班に分かれ、水辺の生き物たちと触れ合いました。

「ビオトープ」は生き物の生息空間の範囲を示す造語で、山全体や川の流域といった広い範囲から小さな水たまりに至るまで、ひとつの生態系が存在する場所を指します。「綾トープはっけんじま」には小さな小川が流れており、カエルやトンボといった水辺の環境を利用する生き物たちが多く集まってくることから、「水辺のビオトープ」とも呼ぶことができるかもしれません。

しれません…。

「綾トープはっけんじま」は町民に開かれた公共区域のひとつです。いつでも自由に立ち入り、遊んでかまいませんが、守ってほしいルールが3つあります。

- ① 必要以上に生き物を捕まえない
- ② 外から生き物を持ち込まない
- ③ ゴミを捨てたり、環境を荒らしたりしない

ビオトープは「生き物たちの大きな家」のようなものです。ビオトープで遊ぶときは、生き物たちの家におじゃまさせてもらっている、という感覚を忘れないでください。

綾ユネスコエコパークセンターでは町内に生息するさまざまな水辺の生き物たちを展示しています。入館は無料ですので、ぜひご来館ください。休館は毎週火曜日です。視察や自然観察に関する申し込みや、センターの利用に関する問い合わせにも応じています。

■綾ユネスコエコパークセンター

☎77・3482

column

キセキレイ

山間地の川や溪流周辺で見ることのできる美しい鳥。冬季には下流域にも移動してくるため、場所を変えて一年中観察することができます。

石や岩に留まって水際のエサを探し求めて動き、長い尾羽を上下に動かす習性があるため「石たたき」などの別名も持っています。胸から腹にかけて黄色く、日本では江戸時代から黄色を表す「黄鶺鴒」という名が付けられています。「黄」は胸・腹の色、「鶺鴒」は脊筋がきれいな鳥、「鶺」は清らかな鳥の意。

一方、海外では背面の灰色に着目した「灰鶺鴒」という名前が付けられています。国によってネーミングセンスが異なることが分かるおもしろい事例です。

